

私立大学研究ブランディング事業

2017年度の進捗状況

学校法人番号	341008	学校法人名	安田学園																				
大学名	安田女子大学																						
事業名	小学校での英語教育を実質化する教員養成・研修システムの研究開発と展開																						
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	4440人																		
参画組織	文学部(英語英米文学科)、教育学部(児童教育学科)、心理学部(心理学科)、家政学部(造形デザイン学科)、教職センター																						
事業概要	<p>本事業では小学校英語の教科化を見据え、初等中等教育の教職学生と現職小中学校教員が共に本学と海外で研修を行い、量的・質的方法でその効果を検証することにより、学生の「教員養成モデル」と教員の「教員研修モデル」を開発する。これにより実践的な教員養成・研修への具体的な示唆を得ることができ、「教員養成の安田」としてのブランドを一層強固にし、広島教員養成ならびに地域の教育活性化に貢献する私立大学を目指す。</p>																						
①事業目的	<p>本事業は、2020年度からの小学校での英語の教科化を見据えて、本学の児童教育学科と英語英米文学科の教員養成における協働モデルの開発、ならびに現職小学校教員と中学校英語教員の教員研修における協働モデルの開発をするものである。また、本学と海外での英語研修と指導法研修の効果を量的・質的手法により客観的に検証するものである。</p> <p>本事業の5か年を以下の3つのステージに分けて目的を達成させる。</p> <p>I 研究ステージ(2016年度～2019年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学児童教育学科と英語英米文学科ならびに現職小学校教員との本学での協働での学習の開始 ・研究対象グループを本学の海外提携校に派遣 ・協働での学習ならびに海外研修の効果の測定 <p>II 開発ステージ(2019年度～2020年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語力・指導力向上を最大にする「教員養成モデル」ならびに「教員研修モデル」の提示 <p>III 展開ステージ(2020年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程を有する地域の他の私立大学と協働し、小中連携に基づいた教員研修を提供する 																						
②2017年度の実施目標及び実施計画	<p>(実施目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1次事前研修の開始 <p>(実施計画)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①広島市教育委員会と事業協力体制の確立(専門委員会、教職センター、教職課) ②海外提携大学と受け入れ態勢の調整(専門委員会、国際交流委員会、国際交流課) ③調査対象項目と方法の調整(専門委員会、心理学科) ④第1次対象学生の選定(専門委員会、英語英米文学科、児童教育学科) ⑤第1次対象現職教員の選定(専門委員会、教職センター、教職課) ⑥本学での第1次事前研修の実施(専門委員会、教職センター、英語英米文学科、児童教育学科) ⑦第1次事前調査の実施(専門委員会、心理学科、英語英米文学科、児童教育学科) ⑧本学での英語教育提供環境の整備(専門委員会、教務部、教務課、英語英米文学科) <p>※年次計画は申請時から変更。概要は変更なし。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>前 年次計画</th> <th>現 年次計画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016年度</td> <td>・事業の実施体制の構築と確立 ・第1次事前研修の開始</td> <td>・事業の実施体制の構築と確立</td> </tr> <tr> <td>2017年度</td> <td>・第1次海外研修の実施 ・第2次事前研修の開始</td> <td>・第1次事前研修の開始</td> </tr> <tr> <td>2018年度</td> <td>・第1次研修の効果の測定 ・第2次海外研修の実施</td> <td>・第1次海外研修の実施 ・第2次事前研修の開始 ・第1次研修の効果の測定</td> </tr> <tr> <td>2019年度</td> <td>・第2次研修の効果の測定 ・第1次・第2次研修における研修の効果の総合的分析 ・「教員養成モデル」と「教員研修モデル」の提示</td> <td>・第2次海外研修の実施 ・第2次研修の効果の測定 ・第1次・第2次研修における研修の効果の総合的分析</td> </tr> <tr> <td>2020年度</td> <td>・研究の知見の応用と共有</td> <td>・「教員養成モデル」と「教員研修モデル」の提示 ・研究の知見の応用と共有</td> </tr> </tbody> </table>						前 年次計画	現 年次計画	2016年度	・事業の実施体制の構築と確立 ・第1次事前研修の開始	・事業の実施体制の構築と確立	2017年度	・第1次海外研修の実施 ・第2次事前研修の開始	・第1次事前研修の開始	2018年度	・第1次研修の効果の測定 ・第2次海外研修の実施	・第1次海外研修の実施 ・第2次事前研修の開始 ・第1次研修の効果の測定	2019年度	・第2次研修の効果の測定 ・第1次・第2次研修における研修の効果の総合的分析 ・「教員養成モデル」と「教員研修モデル」の提示	・第2次海外研修の実施 ・第2次研修の効果の測定 ・第1次・第2次研修における研修の効果の総合的分析	2020年度	・研究の知見の応用と共有	・「教員養成モデル」と「教員研修モデル」の提示 ・研究の知見の応用と共有
	前 年次計画	現 年次計画																					
2016年度	・事業の実施体制の構築と確立 ・第1次事前研修の開始	・事業の実施体制の構築と確立																					
2017年度	・第1次海外研修の実施 ・第2次事前研修の開始	・第1次事前研修の開始																					
2018年度	・第1次研修の効果の測定 ・第2次海外研修の実施	・第1次海外研修の実施 ・第2次事前研修の開始 ・第1次研修の効果の測定																					
2019年度	・第2次研修の効果の測定 ・第1次・第2次研修における研修の効果の総合的分析 ・「教員養成モデル」と「教員研修モデル」の提示	・第2次海外研修の実施 ・第2次研修の効果の測定 ・第1次・第2次研修における研修の効果の総合的分析																					
2020年度	・研究の知見の応用と共有	・「教員養成モデル」と「教員研修モデル」の提示 ・研究の知見の応用と共有																					

③2017年度の事業成果

①広島市教育委員会と計2回の意見交換会を実施。計1回の小学校校長会への参加。第1次事前研修の第1回事前研修は、広島市教育委員会立ち会いのもと開催。また、広島市教育委員会主催「グローバル化に対応した小学校英語授業力アップ研修(全6回)」、「小学校での英語の授業(計3校)」を参観。広島市教育委員会と本プログラムについての協力体制とは別に、英語教育に係る協定書を結ぶ案を検討。2018年度に協定を結ぶ予定。

②海外提携大学と本学において情報交換会を1回実施。受け入れ態勢、スケジュール、プログラムの概要の確認を行った。

③調査をアンケート調査(心理調査)とGTEC受験(英語能力調査)とし、アンケート項目及びスケジュールを決定。第1次研修の中で計4回、各調査を実施することとした。

④第1次対象学生の選定において、児童教育学科学生のうち、小学校教員を目指している2年次学生173名に対し募集説明会を実施。37名の希望者のうち、海外研修コース13名(定員12名)・国内研修コース13名(定員12名)の計26名(定員24名)を選定した。また、英語英米文学科学生の中学校教員・高等学校教員を目指している2年次学生15名に対し募集説明会を実施。4名の希望者のうち、海外研修コース2名(定員6名)・国内研修コース2名(定員6名)の計4名(定員12名)を選定した。定員を下回る結果となったため、第2次研修の学生募集の際は、定員の再検討、募集説明会の工夫等が必要。

⑤第1次対象現職教員の選定において、研修参加対象者の再検討を行った。当初、現職中学校教員(英語)も対象としていたが、研修内容を鑑み、現職小学校教員のみを対象とすることとした。小学校校長会において、広島市教育委員会と本学教員から募集説明を行った。17名の希望者のうち、海外研修コース12名(定員12名)を選定した。

⑥2018年3月17日(土)に第1次事前研修を開始した。事前研修として、全5回の対面研修、学びのポートフォリオ(ポートフォリオ)を用いた学習記録及び活動記録の蓄積、オンライン英会話をスタートさせた。また、夏季に海外研修コースと国内研修コースに分かれて研修を実施後、事後研修を行う予定。

⑦研修参加者への調査(アンケート調査・GTEC受験)の実施。

⑧英語教育提供環境として、本学ラーニングcommons(1号館)3階に「没入型画像投影システム一式」を購入。「VSR(Virtual Study Room)」に名称決定。2018年度の研修の中で、海外研修先で撮影した映像やGoogleストリートビューを用いた海外仮想体験や、Skype等の双方向通信で海外とリアルタイムに繋ぎ、英語によるコミュニケーションを行うなどの活用を検討。

<事前研修・対面研修の様子(2枚)・VSR使用の様子(1枚)>



④2017年度の自己点検・評価及び外部評価の結果

(自己点検・評価)
 ブランディング事業委員会又はブランディング事業専門委員会を計12回実施。「第1次事前研修の開始」に向けて綿密な計画を立て、第1回事前研修を開始することができた。事前研修の内容も、広島市教育委員会が現在小学校教員を対象に行っている英語教育に関する研修を参観した上で、計画することができた。学外講師を招いたり、ポートフォリオを活用したり、プログラムの内容も充実させることができた。また、本プログラムの進捗状況の報告等を教授会等の会議において行った。申請時の計画とは異なるスケジュールとなっているが、本年度に目標とした計画は、概ね満たしていると判断する。

(外部評価)
 海外提携大学(カリフォルニア大学デイヴィス校)の担当者と本学において情報交換会を実施。海外研修の内容以外にも、本プログラムに対するアドバイスをいただいた。事前研修、海外研修、事後研修の計画にそのアドバイスが生かされている。
 広島市教育委員会の担当者と計2回の意見交換会を実施。広島市の小学校における英語教育や、小学校教員に対する英語研修の実情の教示、本プログラムに対する意見をいただいた。本プログラムと本学での英語教育に大きな期待が寄せられている。
 第1次研修終了後に本プログラムの評価を海外提携大学と広島市教育委員会にさせていただく予定。その評価をもとに、第2次研修の計画を行う。

⑤2017年度の補助金の使用状況

2017年度の事業経費使用の主な目的は、英語教育提供環境の整備、第1次事前研修の準備、研修参加者への調査である。
 主な使用状況は、研究設備の整備として没入型画像投影システム一式の購入、研究費としてテキスト及び参考図書購入、旅費交通費、GTEC受験費である。